

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-05 減量化資源化運営事業					ザイムスコード及び個別事業名			
	□支援部門					1104	減量化資源化運営事業		
主管課	資源循環課		関連課			1173	減量化資源化運営事業		
分野名	生活環境								
目標 (目標値)	市民、事業者、行政が一体となって、ごみの発生源や廃出源での減量化、資源化を推進して、循環型社会の形成を図る。生ごみ処理機の世帯普及率15%を目指す。								
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考					
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯						
運営資源 状況	決算値	27,952千円	23,858千円						
	(国・県)								
	(負担金等)								
	(一般財源)	27,952千円	23,858千円						
	人員配置数	4.9人	4.3人						
	人件費	43,970千円	40,365千円						
	協働の パートナー								
事務事業 運営経費	総事業費	71,922千円	64,223千円						
	市民1人当 りの経費	407円	364円						
	対象者1人 当りの経費								
ベンチマーク (平成20年 度近隣自治 体との比較 値)	団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	逗子市	横浜市			
	生ごみ処理機普及率	14.4%	17.1%	7.9%	23.8%	2.0%	20年度	40,960t	39,007t
	資源化率	47.8%	31.5%	17.7%	24.4%	27.9%	21年度	40,340t	40,173t
※鎌倉市は実働の普及台数を示す。他市と同様に補助累計台数を世帯数で割ると21.9%							22年度	39,700t	
							23年度	38,233t	
							最終年度 (27年度)	30,900	
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・名越クリーンセンターでのピット前調査及び事業所訪問による分別指導を行ったが、分別が徹底されていない事業所があり、指導強化が必要である。							
	創意・工夫・課題等の改善点 21年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・多量に廃棄物を排出する事業所を職員が訪問し、ごみの減量化及び分別指導を行った。 ・平成16年度から平成20年度まで人口10万人以上の都市で5年連続日本一のリサイクル率を達成することができた。市民・事業者の協力の賜物と分析している。							
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・店舗内が狭い小規模事業所は、分別保管できるのスペースがなく分別が悪い傾向にあるため、分別指導の強化が必要である。 ・一人当たりのごみ排出量は、ほぼ横ばい状態であり、さらに発生抑制に努める必要がある。							
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・廃棄物を多量に排出する事業所については、毎年、訪問してごみの発生抑制、減量化及び資源化の指導をしているが、それ以外の事業所についても啓発を行い、多くの事業所に協力を求めていく。 ・ごみの発生抑制に向けて、家庭系・事業系ともに啓発を強化する。							
一次評価(課長評価)					二次評価(部長評価)				
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了									
評価結果	改善の必要性	自治町内会での説明会や若年層への環境教育などに力を入れるとともに、事業者に対する分別指導の強化を行っていく。			評価結果	改善の必要性	「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けて、市民、事業者に対する3R推進のための啓発事業を充実させる。		
A	無				A	無			
課長名		古屋 善啓			部名・部長名		環境部 相澤 千香子		